

資料1 用語集

あ行

アスベスト

天然に産する繊維状けい酸塩鉱物で石綿とも呼ばれる。繊維が極めて細いため、吸い込むと肺線維症や悪性中皮腫などの健康被害を引き起こす可能性がある。

ウェルビーイング (Well-being)

身体的・精神的・社会的に短期的な幸福だけでなく、どの将来にわたる持続的な第六次環境基本計画で最

栄養塩類

富栄養化の一つの指標物が増殖をもたらすための必要な各種元素。藻類その他水生植物が要求する物質として窒素、りん、硫黄、マグネシウム、鉄等の物質があるが、藻類生産を制限しやすい物質、すなわち窒素、りん（藻類増殖の最小律）が富栄養化の栄養塩とされている。

エシカル消費

消費者それぞれが各自にとっての社会的課題（環境、雇用、地域等）の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと。（サイクル製品や被災地産品、資源保護等に関する認証がある商品など）

エネルギーマネジメント

ビルや工場等施設、住宅などでのエネルギー使用状況を把握（見える化）・分析し、エネルギーを合理的に利用を実現するための活動。

温室効果ガス

地球の表面から地球の外に向かって放出された赤外線を吸収し、再び放出する性質（温室効果）をもつガスのこと。二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロン類等があり、産業革命以降、人の活動により温室効果ガス濃度が上昇したことが、地球温暖化の原因の一つとされている。

か行

カーボンクレジット

エネルギー機器導入など、企業温室効果ガスの削減量や吸収量として認証したもの。クレジットは企業間で売買され、取引に際しては認証制度を

イメージ

※説明内容は今後整理

カーボンリサイクル

CO2を「資源」として捉え分離・回収して多様な炭素化合物として再利用（リサイクル）すること。

カーボンリサイクル

CO2を「資源」として捉え分離・回収して多様な炭素化合物として再利用（リサイクル）すること。

海洋プラスチックごみ問題

ポイ捨てや放置されたプラスチックごみが、河川などを通じて海へ流出し、生態系を含めた海洋環境の悪化や海岸機能の低下等を引き起こしている問題。

環境影響評価

環境に大きな影響を及ぼすおそれがある事業について、その事業の実施に当たりあらかじめその事業の環境への影響を調査、予測、評価し、その結果に基づき、その事業について適正な環境配慮を行うこと。国においては、事業者が環境影響評価法等に基づき、道路やダム、鉄道、発電所などの対象事業について、地域

資料2 区の特徴と環境関連の取組み

今後作成

(第10次福岡市基本計画をもとに作成)

資料3 福岡市環境基本計画（第三次）の振り返り

2014(平成26)年に策定した「福岡市環境基本計画(第三次)」について、成果指標の達成状況、外部からの要因等を踏まえ、各節、各項の取組みの進捗状況について総合的に評価しました。

<福岡市環境基本計画(第三次)の概要>

位置づけ	・福岡市環境基本条例第7条に定められた環境の保全及び創造に関する基本的な計画 ・福岡市基本計画を環境面から総合的・計画的に推進するための基本指針
環境像	「豊かな自然と歴史に生まれ、未来へいのちつなぐまち」
計画期間	2024(令和6)年度まで

<施策体系と成果指標の一覧>

施策体系			成果指標
第1章 分野別 施策の 展開	第1節 快適で良好な 生活環境のまち づくり	第1項 黄砂・PM2.5などの 大気汚染物質への対応	(1) PM2.5の予測精度
		第2項 良好な生活環境の 保全	(2) 環境基準(大気質)の達成率 (3) 環境基準(有害大気汚染物質)の達成率 (4) 環境基準(自動車騒音)の達成率 (5) 環境基準(ダイオキシン類)の達成率
		第3項 気候変動への対応	(6) 都心部における緑被面積
		第4項 歴史・景観を活かした 美しいまちの実現	(7) 市民のマナーに対する満足度 (8) 自転車放置率
	第2節 市民がふれあう 自然共生のまち づくり	第1項 生き物や自然環境 の保全・再生と自然のネットワ ークの形成	(9) 全市域における緑被面積 (10) 農地面積(農業振興地域の農用地区 域内) (11) 森林面積 (12) 環境基準(博多湾)の達成率 (13) 環境基準(河川水質)の達成率 (14) カブトガニの卵塊・幼生数
		第2項 自然からの恵みの 持続的利用の促進	(15) 身近な緑への満足度 (16) 地域の公園の親しみ度 (17) 福岡市の農林水産業を守り育ててい べきだと思ふ市民の割合 (18) 学校給食への市内農産物利用割合 (野菜)

			(19) 背振少年自然の家 延利用者数 (20) 農林業ふれあい施設年間利用者数 (21) 海づり公園利用者数
		第3項 生物多様性の認識の社会への浸透	(22) 生物多様性を理解し、その保全を意識して行動している市民の割合
第3節 資源を活かす循環のまちづくり	第1項 廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の推進	(23) ごみ処理量 (24) ごみのリサイクル率	
	第2項 廃棄物の適正処理の推進	(25) 不法投棄処理量	
	第3項 水資源の有効利用の促進	(26) 市民1人あたり水使用量	
第4節 未来につなぐ低炭素のまちづくり	第1項 省エネルギーの促進	(27) 家庭部門における1世帯あたりのエネルギー消費量 (28) 業務部門における延床面積1㎡あたりのエネルギー消費量	
	第2項 再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントシステムなどの導入・活用	(29) 再生可能エネルギーの設備導入量	
	第3項 低炭素型の都市構造及び交通体系の構築	(30) 1日あたりの鉄道・バス乗車人員 (31) 公共交通の便利さへの評価 (32) 都心部への自動車の流入台数	
第2章 分野横断型施策の展開	第1節 環境の保全・創造に向けた人づくり・地域づくり	第1項 環境行動を担う人材の育成	(33) 環境教育・学習人材リスト登録者数
		第2項 地域環境力の向上	-
	第2節 環境の保全・創造に向けたしくみづくり	第1項 環境配慮のための手続きや規制等の整備・運用	-
		第2項 市民・事業者の自主的な活動等に対する支援	-
		第3項 環境情報の継続的な収集・発信と共有	-
	第3節 ふくおかから九州・アジアへ	第1項 近隣地域や九州・国内各地域との連携	-
		第2項 国際環境協力の推進	(34) 視察・研修受入人数

<検証方法>

成果指標ごとに達成状況を評価し【表1】、各節各項ごとの平均点から【表2】、外部要因等を考慮したうえで、総合的に評価します【表3】。

【表1】成果指標の達成状況の基準

分類	評価
目標値に向けたペースを達成している又は上回っている	A
目標値に向けたペースを下回っているが、指標は改善している	B
目標値に向けたペースを下回っており、指標が悪化している	C
数値が把握できないため判定不能	-

【表2】総合評価の基準

達成基準 A=3点、B=2点、C=1点とし、各節各項ごとの平均点により評価します。

平均点	評価	
2.5 以上	順調に進捗している	★★★
1.5 以上 2.5 未満	概ね順調に進捗している	★★
1.5 未満	進捗が遅れている	★

【表3】総合評価

総合評価の基準をベースに、外部要因等を考慮したうえで、総合的に判断します。

総合評価 外部要因等を考慮し総合的に判断		
ベースとなる評価	アップ	ダウン
★★★	★★★★	★★
★★	★★★★	★
★	★★	★

(参考) 評価の一例

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
環境基準(大気質)の達成率	NO ₂ 100% (2012年度)	100% (2023年度)	100% (2024年度)	A (3)	★★★ (2.8)
環境基準(有害大気汚染物質)の達成率	ベンゼン 100% (2012年度)	100% (2023年度)	100% (2024年度)	A (3)	
環境基準(自動車騒音)の達成率	95.3% (2012年度)	95.5% (2023年度)	100% (2024年度)	B (2)	
環境基準(ダイオキシン類)の達成率	100% (2012年度)	100% (2023年度)	100% (2024年度)	A (3)	

※上記例の総合評価は、各指標の達成状況より(外部要因等なし)、(3+3+2+3)/4=2.8点となる

<各節各項の総合評価>

第1章 分野別施策の展開

第1節 第1項 黄砂・PM2.5 などの大気汚染物質への対応					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
PM2.5 の予測精度	見逃し率 48.1% (2013 年度)	50.0% (2023 年度)	30%以下 (2024 年度)	C (1)	★ (1) ↓ ★★
<p><特記事項></p> <ul style="list-style-type: none"> PM2.5 濃度の年平均値は年々減少傾向にあり、2023 年度は全局で環境基準を達成した。 2023 年度は、予測情報の提供が必要な高濃度日が2日のうち、1日見逃しがあったものの、平成 25 年 12 月の予測手法の見直し以降、通算の見逃し率は 26.0%と目標を達成している。(特記事項を踏まえ、★増) 					

第1節 第2項 良好な生活環境の保全					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
環境基準(大気質)の達成率	NO ₂ 100% (2012 年度)	100% (2023年度)	100% (2024 年度)	A (3)	★★★ (2.8)
環境基準(有害大気汚染物質)の達成率	ベンゼン 100% (2012 年度)	100% (2023年度)	100% (2024 年度)	A (3)	
環境基準(自動車騒音)の達成率	95.3% (2012 年度)	95.5% (2023年度)	100% (2024 年度)	B (2)	
環境基準(ダイオキシン類)の達成率	100% (2012 年度)	100% (2023年度)	100% (2024 年度)	A (3)	

第1節 第3項 気候変動への適応					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
都心部における緑被面積	96ha (2007 年度)	100 ha (2022 年度)	103ha (2020 年度以降)	B (2)	★★ (2)

第1節 第4項 歴史・景観を活かした美しいまちの実現					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
市民のマナーに対する満足度	31.5% (2012 年度)	49.5% (2023 年度)	60% (2024 年度)	B (2)	★★★ (2.5)
自転車放置率	2.0% (2018 年度)	1.3% (2023 年度)	現状維持 (2024 年度)	A (3)	

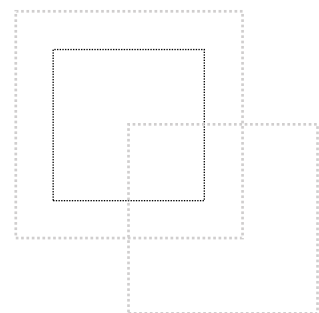
第2節 第1項 生き物や自然環境の保全・再生と自然のネットワークの形成

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
全市域における緑被面積	18,864ha (2007年度)	18,984ha (2022年度)	現状維持 (2020年度以降)	A (3)	★★ (2.2)
農地面積 (農業振興地域の農用地区域内)	1,559ha (2014年度)	1,552ha (2023年度)	現状維持 (2024年度)	C (1)	
森林面積	11,054ha (2010年度)	11,730ha (2020年度)	現状維持 (2024年度)	A (3)	
環境基準(博多湾)の達成率	COD 62.5% (2012年度)	25.0% (2023年度)	100% (2024年度)	C (1)	
環境基準(河川水質)の達成率	BOD 100% (2012年度)	100% (2023年度)	100% (2024年度)	A (3)	
カブトガニの卵塊・幼生数	卵塊:12/幼生: 63 個体 (2012年度)	卵塊:34/幼生: 15 個体 (2023年度)	現状維持 (2024年度)	B (2)	

第2節 第2項 自然からの恵みの持続的利用の促進

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
身近な緑への満足度	31.6% (2012年度)	31.0% (2023年度)	55% (2024年度)	B (2)	★★ (1.9)
地域の公園の親しみ度	57.7% (2012年度)	70.1% (2023年度)	75% (2020年度以降)	B (2)	
福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思う市民の割合	75.2% (2012年度)	77.5% (2023年度)	85% (2024年度)	B (2)	
学校給食への市内産農産物利用割合(野菜) 小学校における主要18品目の重量ベース	24.5% (2012年度)	31.8% (2023年度)	29.8% (2024年度*)	A (3)	
背振少年自然の家 延利用者数	28,737人 (2012年度)	15,825人 (2023年度)	30,000人 (2024年度)	C (1)	
農林業ふれあい施設年間利用者数 油山市民の森/油山牧場/花畑園芸公園/市民リフレッシュ農園(今津・立花寺)	872,920人/年 (2013年度)	900,889人/年 (2023年度)	1,000,000人/年 (2024年度)	B (2)	
海づり公園利用者数	69,719人/年 (2013年度)	44,044人/年 (2023年度)	72,000人/年 (2024年度)	C (1)	

※当該指標は「福岡市農林業総合計画」を参照して設定している。目標値については、同計画の目標年度2026年度における目標値をもとに、環境基本計画の目標年度である2024年度における値を算出して設定している。



第2節 第3項 生物多様性の認識の社会への浸透					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
生物多様性を理解し、その保全を意識して行動している市民の割合	14.7% (2012年度)	19.9% (2023年度)	35.0% (2024年度)	B (2)	★★ (2)

第3節 第1項 廃棄物の発生抑制・再利用・再生利用の推進					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
ごみ処理量	56.3万t (2012年度)	50.5万t (2023年度)	47万t (2024年度)	B (2)	★★ (1.5)
ごみのリサイクル率	30.6% (2012年度)	30.3% (2023年度)	37% (2024年度)	C (1)	

第3節 第2項 廃棄物の適正処理の推進					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
不法投棄処理量	87t (2012年度)	14t (2023年度)	39t (2024年度)	A (3)	★★★ (3)

第3節 第3項 水資源の有効利用の促進					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
市民1人あたり水使用量 (市民一人一日あたりの家事用水使用量)	201リットル (2012年度)	198リットル (2023年度)	現状維持 (2024年度)	A (3)	★★★ (3)

第4節 第1項 省エネルギーの促進					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
家庭部門における1世帯あたりのエネルギー消費量	30.1GJ (2006~2010 年度平均)	17.7GJ (2022年度)	22.1GJ (2024年度)	A (3)	★★★ (3)
業務部門における延べ床面積 1m ² あたりのエネルギー消費量	1.08GJ (2006~2010 年度平均)	0.80GJ (2022年度)	0.88GJ (2024年度)	A (3)	

第4節 第2項 再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントシステムなどの導入・活用					
成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
再生可能エネルギーの設備導入量	11万1千kW (2012年度)	26万1千kW (2023年度)	30万kW (2024年度)	B (2)	★★ (2)

第4節 第3項 低炭素型の都市構造及び交通体系の構築

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
1日あたりの鉄道・バス乗車人員	112万1千人 (2012年度)	104万6千人 (2022年度)	120万人 (2024年度)	C (1)	★★ (2.3) ↓ ★★★
公共交通の便利さへの評価	77.4% (2012年度)	81.8% (2023年度)	現状維持 (80%程度を維持) (2024年度)	A (3)	
都心部への自動車の流入台	88,600台/12h (2013年度)	81,390台/12h (2023年度)	87,000台/12h (2022年度※)	A (3)	
<p><特記事項></p> <p>・成果指標「1日あたりの鉄道・バス乗車人員」については、近年、増加傾向にあり、2019年度実績値は130万8千人と順調に推移してきた。その後、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度以降は減少していたが、徐々に回復してきている。(特記事項を踏まえ、★増)</p>					

第2章 分野横断型施策の展開

第1節 第1・2項 環境行動を担う人材の育成／地域環境力の向上

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
地域環境力の向上	44人 (2013年度)	78人 (2023年度)	80人 (2024年度)	A (3)	★★★ (3)

第2節 第1～3項 環境配慮のための手続きや規制等の整備・運用／市民・事業者の自主的な活動等に対する支援／環境情報の継続的な収集・発信と共有

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
-					★★ (2)
<p>環境影響評価制度等の適切な運用及び表彰・助成による市民・事業者の自主的な活動の支援、環境情報の収集及び調査・研究などの施策も着実に実施しており、概ね順調に進捗していると評価する。</p>					

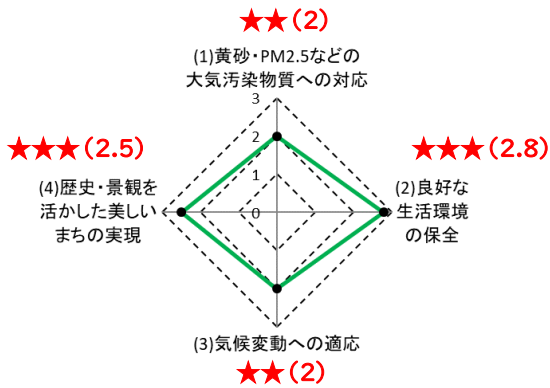
第3節 第1・2項 近隣地域や九州・国内各地域との連携／国際環境協力の推進

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
視察・研修受入人数	602人 (2011年度)	544人 (2023年度)	1,700人 (2022年度)	C (1)	★ (1) ↓ ★★
<p><特記事項></p> <p>・視察・研修受入人数については、2018年度実績値は1,375人と増加傾向で推移していたが、2019年度以降、国際情勢の変化や新型コロナウイルス感染症の影響等を受けている。</p> <p>・一方、令和4年度に、福岡方式の導入・維持管理における協力関係を構築するための国際的な推進組織である「福岡方式グローバルネットワーク」を設立し、国内外の技術者の人材育成や福岡方式の適正な技術移転に係る取組みを推進している。</p>					

<検証結果のまとめ>

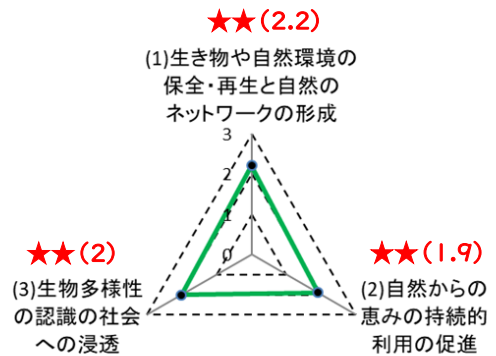
第1章第1節

快適で良好な生活環境のまちづくり



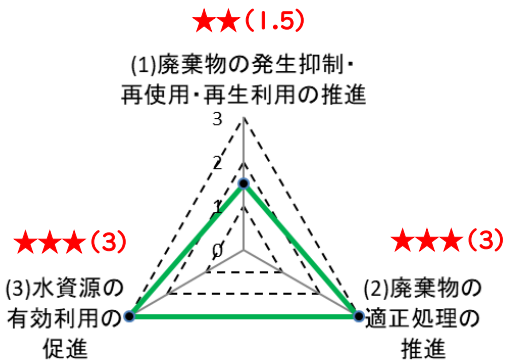
第1章第2節

市民がふれあう自然共生のまちづくり



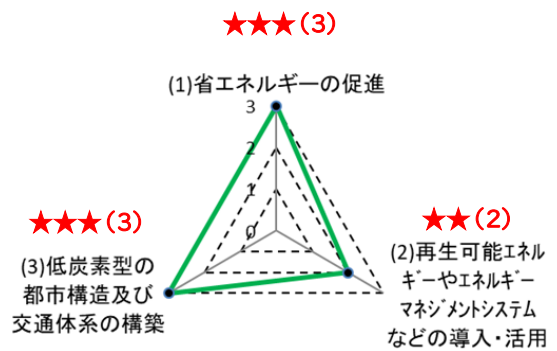
第1章第3節

資源を活かす循環のまちづくり



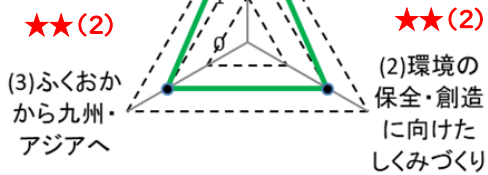
第1章第4節

未来につなぐ低炭素のまちづくり

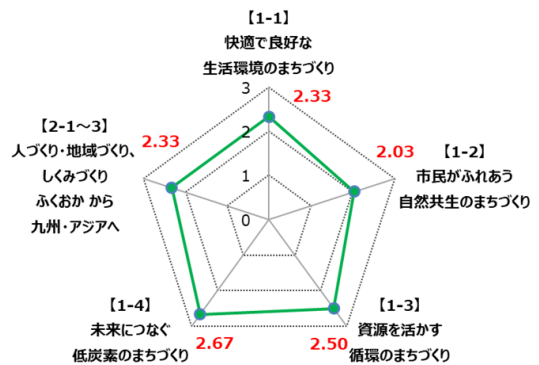


第2章第1～3節

★★★(3)
(1)環境の保全・創造に
向けた人づくり・地域づくり



計画全体の評価



※各節の総合評価結果の平均値

資料4 計画策定における市民参画の取組み

① みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト

1 概要

第9次福岡市基本計画が令和6年度末をもって計画期間の満了を迎えることから、次期基本計画の策定に向けた検討を進めるにあたり、幅広い市民等から意見を募集したものの。

2 実施期間

令和5年4月25日～10月31日（ワークショップ等については11月末まで）

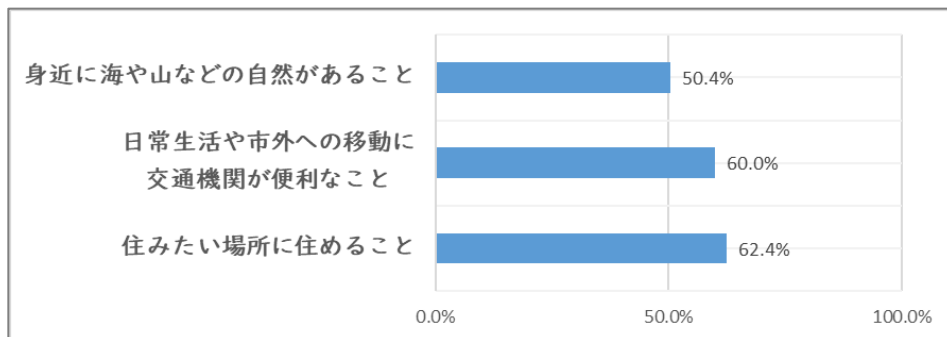
3 実施内容

- | | |
|---------------------|-----------------|
| (1) オンラインアンケート | (5) ゲームを活用した取組み |
| (2) メールや郵送等による意見の受付 | (6) 小中学校での意見募集 |
| (3) 外国からの来訪者へのアンケート | (7) 有識者インタビュー |
| (4) ワークショップ | (8) 民間主導の取組み |

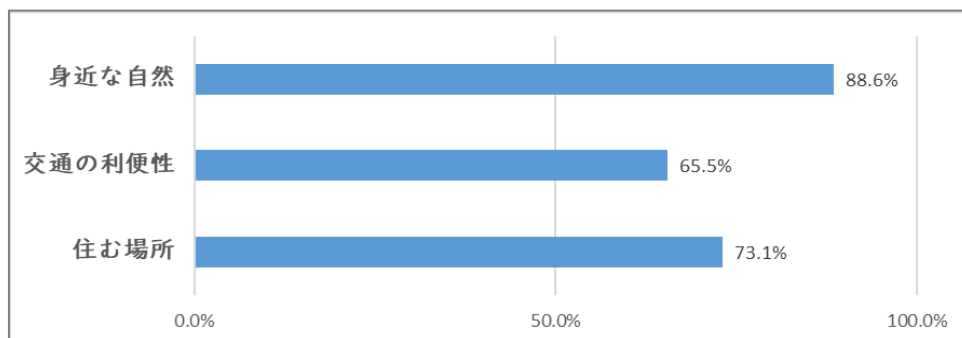
オンラインアンケート

スマートフォンなどで、いつでもだれでも回答できるオンラインアンケートを実施
（回答件数：8,242件）

●「あなたにとって幸せな未来のために特に大切なこと」の選択割合



●選択した項目の現在の満足度（満足+やや満足の割合）



●福岡市や自分自身の未来についての自由記述意見（述べ 3,315 件）

大項目	件数
ユニバーサルデザイン、健康、福祉	504 件
子ども、教育	652 件
文化芸術、スポーツ	160 件
地域コミュニティ	86 件
防災、都市基盤	161 件
防犯、モラル・マナー	155 件
環境、自然	158 件
交通	445 件
経済振興、都心部	299 件
国際	59 件
その他	636 件
	3,315 件

環境、自然に関する意見のうち主なものを抽出

項目	主な意見
脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギーや EV の推進（20 代以下・城南区） ○購入する商品の CO2 量の見える化（20 代以下・西区） ○マンションへの太陽光パネル設置の普及（20 代以下） ○環境問題に一人ひとりが向き合うべきで、自治体は情報発信を（30 代・東区）
資源循環	<ul style="list-style-type: none"> ○リサイクルをもっと身近に簡単にできるように（40 代・南区） ○プラスチックごみを個別に回収してほしい（30 代・東区） ○段ボールが資源ごみとして出しやすいまち（40 代・中央区） ○3R ステーションのような場所が増えるとよい（60 代・博多区） ○コンポストの推奨（20 代以下・中央区）
自然共生	<ul style="list-style-type: none"> ○自然を生かしたまちづくり（30 代・西区） ○ほどよく都会でほどよく田舎っぽさが残るまち（70 代以上・東区） ○花や緑に溢れたまち（50 代・南区） ○幅広い年齢層の憩いの場となる公園（20 代以下・中央区） ○生物多様性への配慮、在来種の保護を（70 代・城南区） ○子どもたちがのびのびと触れられる自然が沢山残ったまち（30 代・東区） ○地球に生かされていることを感じ、感謝できるまち（40 代・南区） ○ヒートアイランドへの対策を（40 代・中央区） ○綺麗で遊べる砂浜がもっと多くあるとよい（60 代・東区） ○海や山が近くにあり、おいしい食で溢れる環境の継続（30 代・西区）

② 福岡の環境みらいづくりワークショップ

1 概要

未来を担う福岡市内の大学生から、理想の環境都市像と実現に向けたアイデアを募り、次期計画策定の参考とするもの。

2 実施日時

令和6年10月5日（土） 13:30 - 16:30（16:00の予定を延長）

3 会場

fabbitGG アクロス福岡

4 参加者

市内大学生・専門学生 16名

5 プログラム

- (1) 基調講演 佐座 楨苗 氏 一般社団法人 SWITCH 代表理事
「地球1つで暮らすために～生態系がベースとなる社会を考えよう～」
- (2) 補足説明 福岡市
福岡市の現況と課題／環境基本計画 について
- (3) ワークショップ
- (4) 発表

6 内容

基調講演等を通して地球環境や福岡市の現状を学び、環境問題を自分事として捉えてもらったうえで、4つのグループに分かれ、それぞれのグループから理想の環境都市像と実現に向けたアイデアについて発表していただいた。

リラックスした雰囲気の中、参加者は環境問題への意識が高く、多様な意見が出され、時間を延長するほど議論が尽きなかった。



(当日の様子)



(発表内容抜粋)

班	理想のまち	アイデア (アクション)
1 班	リサイクルタウン福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのコンビニにリサイクルボックス設置 (街中に猫型ロボットの同ボックスを設置するなど、自発的にリサイクルしたくなる仕掛け) ・ごみ袋等にリサイクルが可能なものを具体的に明記
2 班	グリーン・コネクト・シティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ビルの緑化の推進や身近にある緑を再発掘して、緑を増やし、「点」と「点」を「線」にする →そのエリアをウォーキングできるようにし、道沿いには民間の飲食店等を誘致。その収益の一部は緑化政策に還元できるような仕組み
3 班	緑豊かなまち (ガーデンシティ)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域にコミュニティガーデンをつくり、各家庭にコンポストを1台配付 →堆肥は割り当てられたコミュニティガーデンに持っていき、できた野菜は地域に還元するなど、地域で食料が循環し、地域コミュニティが活性化する仕組み ・2030年までに都市部の緑被率30%に引上げ →街路樹増、ビルの屋上の緑化、車道を減らし緑の歩道化
4 班	食料リサイクル No.1 なまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ウーバーイーツのような配達の仕組みを利用し、家庭や企業から資源物を回収。中心部にリサイクルボックスを設置し、一定量入れたらポイントをもらえる仕組み

③ 九州大学共創学部との連携プロジェクト (Eco Communication Project)

1 概要

自治体や企業等との「共創」をコンセプトに掲げる九州大学共創学部と連携し、環境問題への関心が高い学生有志参加のもと、全4回にわたるプロジェクトを実施。理想の環境都市像と実現に向けたアイデアを募り、環境政策全般や次期計画策定の参考とするもの。

2 実施日時

第1回	第2回	第3回	第4回
R6.7.19	R6.10.4	R6.10.25	R6.11.29
オリエンテーション	施設見学	中間発表	最終発表会
・プロジェクト概要 ・市の取組等説明	・福岡バイオフィード リサイクル	・方向性発表 (環境局若手職員も ブレストに参加)	・各チームの提言 を発表

3 参加学生

10名

4 最終発表会

(1) 概要

実施日時：令和6年11月29日(金) 14:50 - 16:20

会場：九州大学伊都ゲストハウス

参加学生：8名(当日プロジェクトメンバー2名欠席)

(2) 内容

学生は2チームに分かれ、作成したスライドを用いながら理想の環境都市像と実現に向けたアイデアについて各30分程度発表。第1回から第3回までの議論を踏まえ、環境問題に係る日頃の思いとともに、多様なアイデアを提案していただいた。

(当日の様子)



(発表内容抜粋)

チーム	理想のまち	主な内容・アイデア
チーム Eco	自然豊かな住みやすい街	<ul style="list-style-type: none"> ・相乗りマッチングの推進 ・コンポスト広報強化・一人一花とコラボ ・街中にリサイクル素材のアートオブジェ ・住民の意思決定への参画
チーム Green	自己完結型の都市	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消推進（都市部での屋上菜園等） ・スマートごみ箱の導入 ・リサイクルへのゲーム性導入（アプリ等） ・生ごみ堆肥活用（緑地帯での活用等）

資料5 環境局内の取組み

環境みらいづくり局内ワークショップ

1 概要

環境局職員の思いを込めた計画にするとともに、みんなでめざすまちの姿に向けた行動指針や新規プロジェクトの方向性等について検討するため、役職・年齢など様々な有志職員 30 名が集まり、外部ファシリテーターによる進行のもと、全3回にわたるワークショップを開催した。

2 実施日時

第1回	第2回	第3回
R6.9.18	R6.10.4	R6.11.12
・理想像のキーワード抽出	・理想像を AI も活用しながら具体化	・行動指針、新規プロジェクトの方向性発表

※このほか、各職場でワークショップを実施し、職員一人ひとりの思いを反映

(当日の様子)



資料6 パブリックコメントの概要

資料7 計画策定までの流れ

資料8 関係例規等

後日作成

